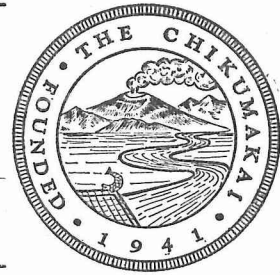


THE CHIKUMAKAIHO

SEP. 1970

千曲会報

No. 176

編集発行人 竹 田 寛
発行所 社団法人 千 曲 会長野県上田市常入 信州大学繊維学部
振替 長野 6243, 東京 43341
電話 上田(2)1215(代表), (2)4465(直通)

ヨーロッパ紀行

田 口 亮 平

本年の5月にフランスで第12回国際蚕糸学会（国際養蚕技術会議）が開催されることになり、昨昭和44年の11月22日に東京で開かれた日本蚕糸学会役員会で学会代表として私が推薦されることが決定した。45年4月30日付で内閣総理府総務長官名で「日本学術会議農学研究連絡委員会委員（信州大学教授）田口亮平、フランス・スイス・ドイツおよび連合王国の各国へ出張を命ずる」という辞令を頂戴した。

東京で出発の準備をするため5月末に上田駅を出発した。皆様に御迷惑をおかけしないように出発日時はどこにも御知らせしなかったが、本学部の極く親しい先生方・職員の方々・専攻学生他多数の方々の御見送りを受けて感激した。山口先生の御嬢さんが贈って下さった花束をもって家内と並んで上田駅のプラットホームで写真にうったときは少々照れたが、後から出来上がったカラー写真を見てよい記念になったと喜んでいる。5月から日本航空がモスクワ経由のバリ直行の航空路を開設することになっていたの、それを予約し、5月7日午前10時10分羽田を出発した。出発の時には雨が降っていたが、飛行機が日本海を北上する頃から晴れあがり、シベリア大陸は15,000メートルの高度の機上から下界の山や河や村落が見えた。出発後約10時間でモスクワ着、空港ロビーで1時間の休憩後、再び機上の人となった。モスクワでは多数の乗客が降り、その中には地方行政視察の日本の県会議員団の一行があり、千曲会副理事長母袋忠右エ門長野県々議も居られた。羽田から満員であった飛行機は、それからがら空きとなり、スチュワーデスもこんなことは珍しいとい

来て色々と話をした。羽田から約16時間、現地時間でその日の午後4時頃にはもう私達の乗った飛行機はパリ空港に到達した。

パリ空港は大規模で、しかも複雑している。入国手続は極めて簡単だが、これを終って一旦ロビーに出て、それから再び税関の構内に入る。もっていった外貨はすべてドルだから、外国に入った第一の仕事はドルをその国の通貨に変えることから始まる。空港の両替所が混雑していて手間どったので、税関構内に入ったときは乗客は誰一人おらず、私の荷物だけが1つチョココンと残っていた。そのトランクをさげて外に出ようとするすると巡査のような制服を着て、胸に勲章の略綬をぶらりとつけた人がよびとめる。税関吏であることにやっと気がついて、パスポートを見せると、さっと姿勢を正して挙手の礼をしたのにびっくり、official passportの有難味をつくづくと感じた。落付いたホテルはパリの高級住宅地帯のPassyにある小じんまりした上品な宿で、クラークもメイドも親切で、2週間のパリの滞在中ここで気持ちよく過ごすことが出来た。

国際蚕糸学会は5月11日から5日間ベルサイユのフランス国立中央農業研究所で行なわれた。この国際会議と平行してパリで国際絹糸会議が盛大に行なわれ、



国立中央農業研究所畜産部を見学中の一行

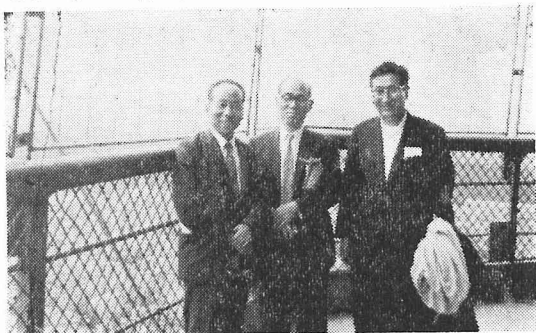
国際蚕糸学会も1日だけパリでこれと合同会議がもたれた。ベルサイユは第一次世界大戦後の講和会議が行なわれたことで有名なベルサイユ宮殿のあるところで、国立中央農業研究所はこの宮殿の直ぐ近くにある。ベルサイユまではパリから汽車で行くのが普通だが、学会参加者は全部パリから毎日貸切りバスで約1時間の行程を往復したが、バスの車中で隣り合った色々の国の学者とゆっ

く感じた。落付いたホテルはパリの高級住宅地帯のPassyにある小じんまりした上品な宿で、クラークもメイドも親切で、2週間のパリの滞在中ここで気持ちよく過ごすことが出来た。

くり話し合えたことは思いがけない収穫であった。

今回の国際蚕糸学会の特徴は毎日一部会ずつが開かれ各部会ごとに予めテーマが決められていたということである。そして世界中から、そのテーマに関連した研究をしている学者が報告を学会事務局（フランスのアレーにある国立蚕業試験場内にある）に送り、それぞれ予め定められた General reporter がこの報告をとりまとめて学会の席上で講演し、その講演に対して参加者全員でディスカッションをするという方式で行なわれた。この方式は短い時間内に相当な成果をあげ得るという点で成功であったと思う。桑部会のテーマは異なる気象条件における桑繁殖法の改善および桑園栽植の生物学、蚕部会は絹物質の分泌と蚕の人工飼料、病理部会はバストウル以後における蚕の微粒子病の研究およびその進歩、経営経済部会では、各国の絹生産、養蚕経営の改善状況、飼育の合理化および機械化、野蚕部会では野蚕に関する最近の研究および技術的進歩であった。

参加者は17ヶ国から56名に及ぶ盛会であり、その中には国際蚕糸学会事務局長であるアレーのフランス国立蚕業試験場長の Dr. Schenk、有名な遺伝学者であるソ連のアカデミー教授の Dr. Astaurov、高名な生化学者リヨン大学の Legay 教授、細胞病理学者として広く名を知られたモンペリエ大学の Vago 教授があり、その他蚕糸学者として一流の人々の集まりであった。日本からは政府代表として農林省山下蚕業課長、養蚕団体からは全養連の芦刈副会長はじめ10人の代表、その他蚕種・繭関係などからも3名と学会代表の私とが参加した。



パリに着いた日本から出席者の一部
(エッフェル塔上にて)

中央：農林省山下武雄課長，向って右：国際養蚕振興協会片岡伍郎会長，向って左：筆者

日本から提出した論文は日本蚕糸学会によって検討選定された次のものである：桑関係——R. TAGUCHI : Improvements in the methods of propagation of mulberry trees under various climates in Japan; T. HONDA : Studies on the propagation of mulberry trees by cutting; T. ISAGO, ET. AL : mulberry

field of quick production by means of the mulching-hardwood cuttage; T. ISAGO, ET. AL : Propagation of mulberry trees by means of the cutting-grafting, an application of the mulching hardwood cuttage; 人工飼料関係——T. ITO : Nutrition of the silkworm (*Bombyx mori*) and its artificial diet; 絹物質の分泌——H. SHIGEMATSU : Physiological and biochemical properties of fibroin synthesis in the silk worm, *Bombyx mori*; 経済部会——S. TANAKA : Automatic silk worm rearing equipment. これらの論文はそれぞれ General reporter から報告された。私は持参したスライド20余枚を用いて、日本における異なる気象条件下における桑繁殖法の分布とその農業気象学的並びに植物生理学的な解析を行なった私の研究を講演し、併せて日本における他の研究者の桑繁殖法に関する研究を紹介した。外国代表は日本の蚕糸科学・蚕糸技術を学びたいとする意欲が極めて旺盛であるように見受けられ、一般討論において日本代表に質問が集中し、私もしばしば演壇上にくぎづけにされた。また千曲会員である田中茂光博士の自動養蚕機械には多くの国の学者技術者から高い関心が寄せられ、これを導入したいという意向を私に洩らした国もいくつかあった。

今度の国際蚕糸学会は、フランスの有名な微生物学者・化学者であり医学者でもあるルイ・バストウルが南フランスで蚕の微粒子病の研究に輝かしい成果をあげて母体伝染を確認し、その防除法を確立し、フランス（のみならず全世界）の養蚕業の滅亡の危機を救った時から丁度100年目に当たるのを記念して行なわれた。学会終了後参加者全員がバストウル研究所を訪れ、バストウル記念館にある彼の墓前に花輪を捧げ、彼の偉大な功績を讃えて黙祷した。バストウル研究所はパリ市内にあり、地下鉄にバストウルという駅の付近一帯の広大な地域を占め、道路をはさんで数多くの立派な建築物が林立している。分子生物学の研究室の建物も壮大なものが新築中であり世界の生物学研究のメッカとなっている。フランス人はバストウルを非常な誇りとしており、5フラン紙幣には彼の肖像が印刷されている。

国際蚕糸学会は最近では4年ごとに開かれているが、今度の国際学会は第12回で、第1回が1870年に Goritz で開かれてから丁度100年になり何れもヨーロッパで開催されている。このようにヨーロッパにおける養蚕への関心は歴史が古く、今でもイタリア・ソ連・ポーランド・ルーマニア・インドを始め、中央アフリカ共和国・レバノンその他の新興国の養蚕への意欲は極めて高い。フランスは今では養蚕はほとんどやっていないが、いわゆるファッション・インダストリーとしての絹業への関心、意

欲は実に旺盛で、世界をリードするパリモードには絹は重要な役割を占めていることを私は私の肌で感じとって来た。国際絹業会議と合同で招待を受けた絹のドレスのファッションショーは豪華絢爛であり、世界各国の男女の参加者の目を奪った。

お別れパーティーにはやはり国際絹業会議と合同で行なわれた。パリの北停車場から特別仕立の1等車ばかりの専用列車でノンストップで2時間ばかり乗って有名なシャンパンの産地であるシャンパーニュ地方に出かけ、シャンペン工場を見学し、工場内のレストランで豪華なシャンペン・パーティによるお別れの会が開かれた。シャンペンはヨーロッパでも高価で、どこのレストランでも仲間容易に飲むことは出来ないのが普通であるのに、シャンペンをふんだんに供されたこのお別れパーティからみても、如何に絹業がフランスで巨大な実力をもっているかがわかる。世界の絹の生産額の約半分は日本が占め、しかも日本は自国で生産した絹だけでは国内の需要を充たすことが出来ず、最近では絹の輸入国となってしまっ

た。これは日本が経済的に世界の大国になった1つの証拠でもあろうが、かつて日本が絹の最大の輸出国であったことを思えば考えさせられるところが多い。現在でも世界の絹に対する需要は非常に大きく、国際蚕糸学会では最終日の閉会式に、ここ10年間に世界の絹の生産額を倍増することを議決した。日本でも今後再び絹の輸出国となるように日本蚕糸業を再検討し再編成すべきではなかろうか。

私はパリおよびベルサイユにおける学会会場以外で羽田出発から帰国まで一人で行動した。学会終了後はパリの大学地帯であるカルチエ・ラタンやルーブル美術館、国立近代美術館等を心ゆくまで見学した。ルーブルはフランス王朝歴代の王宮で、完成したのはナポレオン三世の時代である。ナポレオン一世がヨーロッパを制覇したときに各国から、特にイタリアやエジプトからもち帰った美術品が中心となり収蔵観展されている世界第一級的美術館である。ルーブルの所蔵品中東洋美術に関するものは現在ではギメー美術館に移されている。私は外国における東洋特に日本と中国の美術品が見たいということを念願していたので、ギメー美術館へは2日間通ったが、ここは知る人も少ないので、ルーブルが観光客でひしめき合っているのに反し、ここを観客はいつもまばらであった。

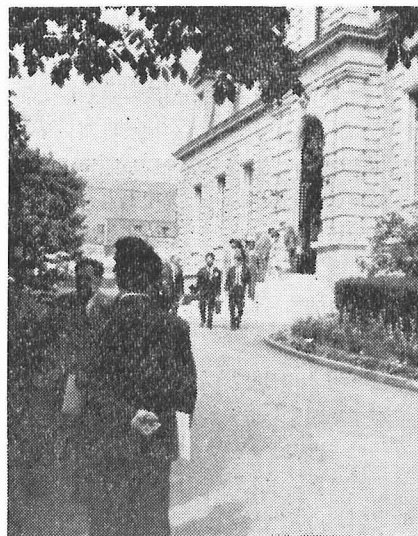
2週間のパリ滞在を経て5月22日にスイスエアーの飛行機でスイスのチューリッヒに向った。パリを去るときにはさすがに名残りおしかった。ヨーロッパの雨は、日本のようにじめじめと1日中降るということがない。さっと降って来て、さっと霽れ上がる、いわゆる通り雨である。セヌ河に降る通り雨を見やりながらしみじみとした旅愁を感じた。

ここにまた赤酒（ヴァン・ルージユ）のむこと
あらざらむ 通り雨いまセヌに降れる

この一首がこの時の私の感懐である。

チューリッヒには3日間滞在、紺碧の湖水と白雪輝やくアルプスの偉容につつまれたお伽噺の国のように美しいスイスの風景を満喫した。ここでは有名なEidgenössische Technische Hochschule やチューリッヒ大学を訪れた。チューリッヒ大学植物園では、やはりアルプスの高山植物に眼をひかれた。楓の太木の木蔭にやすらい

薄青き羽根もつ楓の実心持ちよき
風にのりつつ吾が肩に降る



バストウル記念館を参観中の一行

しばし瞑想にふけた。フランスでは英語がどこでも通じるので不自由はなかったし、学会でもフランス語の講演や質問は仏人の通訳が英語でいい直してくれたので助かった。しかし学生時代に一年間習っただけのフランス語では、フランス語の会話は全然出来ないのもどかしかった。チューリッヒはドイツ語地帯なので、この時とばかりドイツ語の会話の練習のつもりで、片言のドイツ語をしゃべりまくった。

チューリッヒのタクシー運転手
愛想よく 吾がドイツ語の
発言正す

5月25日やはりスイス・エアーの飛行機でドイツのミュンヘンに向った。約1時間でもう到着だ。飛行場の建物がレンガ色でがっかりしており、如何にもドイツだなあと感じた。ミュンヘンは有名なビール産地で、ドイツ有数の大きな大学であるミュンヘン大学があり、この自然科学博物館も世界的に知られている。各所の見学を終って5月27日ルフト・ハンザの飛行機でフランクフルトに向う。ここは小じんまりした美しい町で、中央をメイン河が流れているので、フランクフルト・アム・メインと呼ばれている。文学史上燦として永遠の光を放つ巨匠ゲーテの生れたところで、その生家は今でも大切に保存されている。

ヴェルテルを再び読まむ昂りを
覚えつつ歩むゲーテ・ハウスを

また近代印刷術の創始者ニュルンベルグはこの生れで
その銅像が目貫通りに立っている。ハイデルベルグ大学は
ここから自動車で約2時間で行ける落ち着いた大学町にあ
る。

もの古りし大学町の物語り アルトハイデルヒを
知りて久しき

有名なライン河もフランクフルトから近い。

満々と流れ止まざるライン河ローレライ前に
遙けくも来つ

ドイツで最も古い歴史をもつゲッチンゲン大学は東独と
の国境に近く、フランクフルトからアウトバーンを160
キロの高速で車をとばせて4時間近くかかる。

ゲッチンゲンの市庁広場に市民みな 集ひて
祝ふ大学祭を

ヨーロッパでは大学町と大学とのつながりが如何に強
いかをしみじみと感じさせる一情景であった。

5月31日パン・アメリカンの飛行機でベルリンに向う。
有名なベルリン大学は今では東ベルリン領域になっている
年若く医学徒の叔父が客死せし ベルリンの地に
今ぞ吾が立つ

この土地をふんだ私は、若くしてここに留学中に客死し
た叔父をしのんで低回時を久しうした。嚴重な検問を経
て東ベルリンの地をも訪れた。折りから先生に引率され
て東ベルリンに見物に来ていたらしい小学生の一団が私
を見て、ヒネーゼ、ヒネーゼという。中国人に間違えら
れたのはここだけだ。よほど不思議に思ったらしく、一
人の子供が私を追いかけて質問したので、“Ich bin ja-
paner.” というのとやうと納得がいったような顔をして
友達のところへ帰って行って説明していた。

6月2日ブリテイシュ・ヨーロッパ・エアウェイで
ロンドンに向う。飛行機はドーバー海峡を越え、1時間45
分でもう1国の首都から他国の首都へと到着だ。さすが
にロンドンは世界最大の都会で古代からの歴史がきざみ
こまれている。シーザーがイギリスに遠征したときの城
壁の一部が近代的大都市の真中に今でも残っている。イ
ギリス最古の歴史を誇るオクスフォード大学はロンドン
から車で3時間ぐらにかかる。大学教会を中心に古色蒼然
とした堂々たる建物が林立していて、イギリスの学問の
伝統の深さを如実に示している。しかし裸足で町中を闊
歩している異様な大学生の姿が眼につく。私の車の運転
手（三和銀行ロンドン支店長の好意で5日間の滞在中専
属で私を案内してくれたベテランの英人運転手）は、あ
れが最近の大学生の流行だといった。伝統の国イギリス
にも新しい時代の流れが容赦なく流れ込んでいるのを痛

感した。ロンドン大学はオクスフォードやケンブリッジ
と対照的に極めて近代的のモダンな大学である。ロンド
ンでは世界最大の美術館である大英博物館をゆくり見
学した。世界の宝物といわれる中国唐代以前の六朝期の
名画顧閔之の女史箴図の実物に接し、しばらくその前を
離れることが出来なかった。またビクトリア・アルバ
ート美術館の中国古陶の膨大なコレクションには眼も奪わ
れるばかりであった。

6月6日にロンドン始発・モスクワ経由羽田行きの飛
行機（この空路が開設されたのは6月からで、私の乗っ
たのは第2便目に当る由）で6月7日昼間元気で羽田に
帰着した。（筆者：たぐち・りょうへい、農学博士、本
学部教授、蛭17回）

三石賢君の論文紹介

会 田 源 作

繊維工業化学科第9回卒業三石賢君（本学助教）は
かねて染料溶液の物理化学なる論文を大阪府立大学に提
出中のところ本年3月教授会をパスして工学博士の学位
を授与された。まことに慶賀の至りであります。同君は
極めて真面目な学究であり染料溶液の物理化学的研究に
専念し永年の努力の結果この度の榮譽を得られたので、
この上とも同君のいよいよ健康でご活躍されることを
期待する次第であります。ここに論文の概要を紹介して
祝意を表します。

論 文 概 要

物理化学的立場から染色に関係ある諸問題を追求する
ために溶液中における染料の分散状態、染料の吸着に及
ぼす有機溶媒、界面活性剤、無機電解質などの影響につ
いて検討することを目的として研究を行なった。

論文は3章からなり、第1章においては溶剤染色にお
ける基礎的知見を得るために、水-有機溶媒混合系にお
ける染料の挙動について検討した。第2章においては界
面活性剤の均染作用について述べ、第3章においては染
料の吸着に対する無機電解質の作用について考察した。

第1章においては、水-有機溶媒混合系におけるAl-
izarine Saphirol SE (1.5-ジヒドロキシ-4.8-ジアミ
ノアントラキノ-2-スルホン酸ナトリウム)の可視部
スペクトルと電気伝導度を測定することによって、水
中において染料は会合（2量体、4量体などを形成する
こと）しているが、エタノール、ジオキサンなどの有機
溶媒の混合割合が大になるにしたがって、解会合する
ことがわかった。また、有機溶媒の混合割合が大きい低誘
電率の溶媒中においては、染料イオンとナトリウム対イ

上田繊維科学振興会賞候補者推薦ご依頼

繊維科学振興会賞候補者を下記規定によって募集するので奮って候補者をご推薦下さい。推薦期間9月末日までに千曲会理事長あて提出して下さい。

研究表彰規定沿革

1. 繊維科学振興会賞は、繊維科学およびこれに関連した科学の分野において顕著な功績のあったものに授与する。
2. 前項の業績は発表された論文、著書または発明考

案とする。

3. 受賞決定者には賞状および賞金を贈る。
4. 繊維科学振興会賞の受賞候補者は信州大学繊維学部長または千曲会理事長より推薦されるものとする。推薦のべ切は毎年9月末日とする。
5. 受賞者の選考は受賞選考委員会において行なう。
6. 授賞は千曲会総会において行なう。

昭和45年 8月 相国法人 上田繊維科学振興会

オンとはイオン対 (Bjerrum の ion Pair) を形成することがわかった。イオン対形成反応については、イオン対生成定数および熱力学的諸定数を求めるなど定量的取り扱いを行なって有益な結論を得ている。

また、イオン対形成の際には、特有なスペクトル変化が見られることを見出した。

第2章においては、界面活性剤の均染作用について述べてある。すなわち、界面活性剤をその均染機構から繊維親和性均染剤と染料親和性均染剤とに分け、両者の均染効果を決定する主要因子に着目して均染剤を加えた場合の染色現象の特異性を明らかにした。すなわち、繊維親和性均染剤について検討した結果、繊維上において吸着イオン間に相互作用がない場合には、活性剤の均染効果は、染料と活性剤との繊維に対する親和力によって説明することができることを明らかにした。また2種の染料によって配合染色する際に染料親和性均染剤を加えれば、それぞれの染料の吸着には特異な現象が見られる。これらの現象は、染料間、染料—活性剤間の相互作用、および繊維相中のナトリウムイオン濃度の増加を考慮することによって十分に説明することができた。

第3章においては、染色における無機電解質の作用に関して主として陰イオンの作用について述べた。陽荷電座席を有する繊維に対しては無機陰イオンの種類によってそれぞれ異なる親和力を有することがわかった。また染料の活量係数は共存する無機陰イオンの種類によって異なることがわかった。これら染色における無機陰イオンの作用は、それらのイオンの離水序列によって変化することを明らかにした。

西沢正一君(蚕22)学位を受く

昭栄製糸株式会社社長野製造所長西沢正一氏は昭和45年5月8日附にて九州大学より農学博士の学位を授与せられた。研究の中心は推計学とこれに関係ある応用数学であり農学界においては特徴のある研究であり、困難性の多い部門であると共に、又同氏は他に経営の実務を遂行しながら研究を進めたことは大きい努力であったことに

感心せざるを得ない。同氏は昭和10年から7年間農林省蚕糸試験場に勤務し、主として遺伝学と蚕品種改良に関する研究を行ない、特に数量因子遺伝の研究の手段として生物統計学を研究し、当時からこつこつと今日の推計学の研究を進められていた。後戦争拡大のため日本蚕糸統制公社に移られ、戦後昭栄製糸株式会社に入社し、同社大磯研究所原種課長兼大磯製造所蚕業課長の時代には蚕品種改良、農林省の委託によるラウヂネスの原因と防除に関する研究にて多大な成果を収め、其の後同社蚕業研究所長兼長野製造所所長の時代には繭重による雌雄分離法、鱗毛の集塵装置、微粒子病胞子の集団検査法等の研究を行なった。主論文の繭重による雌雄分離法の研究は繭重の度数曲線を推計学的に分析し、特に重相関々係の分析と3元方程式の確立、対数曲線のあてはめ、其の他オペレーションリサーチ的手法の優れていること等を発見された立派な業績である。(竹田寛記)

より完全な宇宙の姿を求めて

繊維工学科3年生 小坂幸輝

「宇宙とはなんぞや」という疑問は、しばし続けて熟考すれば、驚嘆と畏敬の念をもって我々の心を充足する。我々の上にある星の輝く大空は、恒星が光を発するがゆえに、天空が光を透すがゆえに、遊星が光を反射するがゆえに、人間が光によって識別するがゆえに、我々の感覚器官への物の作用の結果として間接的に現象する映像であり、客観があるがままに認識されるのではなく、主観がそれを把握するように思考されるにすぎない。宇宙には様々な自然現象があり、我々が数々の自然現象と種々の相互作用で結ばれて人間的世界の形成を作り上げている。自然科学はその主体的相互作用の根源的現象か如何なるものか、如何なる意義があるかを反省吟味し、全体的根源的自然解釈を行なう。しかし、宇宙には無限にその個別的探索を続けねばならず、全面的に見渡し尽すことが不可能である。しかし、外界の人間的存在の根本的事実は外界構成と人間的対処の根源的支点としてその構図を原理的に描きだせるだろう。即ち、宇宙全体を扱

うのは原理的視点の設定という意味であり、主体的関与の根源を反省するという意味である。宇宙論は通常の感覚的対象や経験的手段によってその存在性質が実証されるという実在物でなく、基礎概念から基礎法則によって論理構成による抽象概念である。我々がこれから宇宙論を論じるにあたって、その経過と誘導は簡単にし、結論のみ述べよう。

ニュートンの万有引力の法則は、星々の体系の運動と進化の合法則性を説くとき重要な役割をはたした。しかし、天文学的観測は我々に知られている部分での星々の体系が近似的に一樣であると得た。これに前の法則を適用すると、空間の各点で重力は無限大か不定である、となり重大な困難にぶつかった。この困難はアインシュタインの一般相対性理論から、フリードマンによりその重力方程式の解を発見した。その仮定と結論は、全空間の物質の平均密度は時間と共に変化する、物質で一樣に満たされた空間の大きい領域は平衡状態を保てない。さらにルメートルによって、宇宙が静止しているとき、その大きさは包含している物質に決まると考えた。一般論の結論は質量の存在が我々の空間と時間を絶対的に曲げる。ド・ジッターは宇宙にはもともと時間と空間とに存在する性質によりある大きさの曲率があると考えた。これらから宇宙は四次元球体の表面である。空間は三次元の超球面で、体積は有限だがどこにも極限がない。しかも宇宙は非常に不安定でしばらくも静止することができず、膨張してド・ジッター宇宙になるか、収縮して黒色宇宙になる。従って年へた宇宙の実際は膨張しているか収縮しているかのどちらかで、宇宙に含まれる天体は丁度ゴム風船の表面の点群のように、ふくらませたり、しぼませたりすると点と点との距離が離れたり近づいたりして、どこから見てもその点が中心になって膨張あるいは収縮している。時間も一般論から空間の有限性と同様に有限のものである。我々の時間の感覚的対象となる宇宙時間は、時間宇宙球面状での表面で、容量は有限だが極限がない。しかも、時間の容量は宇宙の膨張あるいは収縮によって増加あるいは減少する。時間の流れは人間的感覚であって宇宙には流れがなく無始無終である。宇宙の外側は四次元以上の超多次元空間で、各点間の相違も体積も時間を記述されない。

ハイゼンベルグとシュレーディンガーにより違った見地からつくられた量子力学は、マトリックス力学と波動力学の数学的表現を基にし、ある程度の不確定性を定立した。そして、新しい波動力学は運動している電子あるいはプロトンが一定の波長をもつ波動体系に展開した。この波長は運動体の質量と速度とに関係するのみである。物質も光も一種の波動である。光速で動く粒子は

同質量の光量子と同じ波長になる。しかし物質と光は2種類の波で、一方は波の大きな貯蔵物であり、一方は開放された波である。物質絶滅の操作は閉じこめられた波のエネルギーを開放して空間を自由に運動させたものにほかならない。

ハイゼンベルグの不確定性理論は相補的物理量すなわち位置と運動量及び時間とエネルギー等の一対が両方を同時に確定できない。これはディラックの一般理論とよく似ている。一般理論は原子や電子の大群が相手のとき平均に関する数学法則が物理法則の与えなかった確定を与える。しかしこの両理論で電子波の全性質を規定できない。電子波についてボーアらは、電子が持っている状態と位置とに関して我々のカテゴリーを象徴的に表わしたと考えた。物質と光の波動現象は波動の性格をもつ抽象的な数学式を具体化したもので、単に事件を表わす数学的記述にすぎない。こうして全宇宙を波の世界と考えることをやめよう。

以上のことから結論的に宇宙は空虚な時間に接合された空虚な空間で、全ての物質は空間に静止し、最間に対してのみ進み、光は空間と時間の本性から光速で伝播し相対的量でなく絶対的量である。宇宙はもともと時空エネルギーで創られていて、それが具体化すれば物質と光になり、物質は大きなエネルギーの缶詰で光は缶詰にされていないエネルギーである。相対論よりエネルギーは質量を持ち、質量の存在は空間と時間を絶対的に曲げ場をつくる。場は位置エネルギーを持っている。つまり缶詰にされてエネルギーが多量に集中している場所が物体であり、集中の少ないところが場である。宇宙が膨張あるいは収縮すると物質の平均密度は減少あるいは増加する。宇宙膨張あるいは収縮は、その物理的諸条件が全く異なる。現在宇宙が膨張しているから、我々の地球に昼と夜があり、太陽を中心として回転し、さらに銀河系の中心のまわりを回転する。宇宙が収縮を開始すれば物理的諸条件が異なりその姿は全く異なる。すなわち、我々の宇宙の起源は現在の物質の組成が膨張開始の瞬間に決定され、膨張がいつ始まったかを意味する。

宇宙に存在する時空エネルギーは分子や原子や場や光を作り、その目的は物質や生物を作るためでなく、時空エネルギーの種々の相互作用により必然的に生まれた。生命は時空エネルギーにより時間に制限された正負のフィードバック機構である。それなら宇宙の時間と空間の有限性から一領域内の空間に存在する生命体は有限でなければならない。宇宙の膨張、収縮にともない生命体は増加・減少する。だから宇宙の収縮時において生命を持つ物質が存在できない。宇宙が膨張するからこそ我々人間が存在し動物や植物が存在できるのである。

日本繊維学会昭和45年度秋期大会開催のお知らせ

- 母校60周年記念事業の一環として、日本蚕糸学会第40回大会に引きつづき下記により、日本繊維学会秋期研究発表会が母校において開催されることになりました。皆様の多数ご参加とご協力をお願いします。
1. 大会委員長 白樫 侃 副委員長 会田源作
 2. 日時・場所 10月30日(金)・10月31日(土)
午前9時～午後5時 信州大学繊維学部
 3. 特別講演については現在交渉中で講師は未定です。

学園あらかると

お盆すぎともなると上田はもう秋で周周の田んぼからは雀追いの音が聞こえて来る。今年も隣の上田東高校の好意により、7月24日から8月10日までの間の昼休み中、同校のプールが当学部教職員のために開放された。期間中は男子競泳大会などもささやかに開催されたそうであるが、期待の女子部はついに流れになったとのことである。

上田東高校といえば、この高校および当学部の旧講義棟をはじめとし、上田蚕種などに次々と放火していた犯人が8月中旬につかまり、永年、当学部教職員の胸につかえていた問題もやっと解決された。

菅平体育指導室新営工事 菅平ヒュッテの敷地内に、補強コンクリートブロック造りの平屋が新築される。場所はヒュッテの北側、グラウンド寄りの所で、7月27日に起工式が行なわれた。完成は11月末日の予定で、延40畳、二段式の寝室の他、炊事室、食堂、乾燥室、浴室、洗面所、管理人室、便所等を含め、総面積は171.72平方メートルである。外観は白とベージュの壁にグリーンカラー鉄板ぶきの屋根からなるモダン

な建物だ、これが完成すると旧ヒュッテは取りこわされるらしい。

学 内 人 事

7月1日付発令

関博 夫 教授に昇任 (織 維)

竹田 寛 教授に昇任 (織 農)

8月10日付発令

三石 賢 助教授に昇任 (織工化)

第16回国立大学繊維工学教育研究集会開催される

今回は信州大学繊維学部が当番校で6月5日は当学部、6月6日は上山田名月荘で、それぞれ開催された。

第1日目は東京工業大学教授石川章一氏の、国立大学繊維関係教育研究集会の経過についての講演の後、当学部学部長白樫侃教授を議長として議事に入った。議題は、繊維工学における新しい教育のあり方について、と、大学院の設備標準について、の二つであったが、最初の議題については活発な討論の後、白樫議長によって以下のように集約された。

産業界および学生の要望により繊維工学科の内容も変える必要があると思われるが、工学部における繊維工学と繊維学部における繊維工学とは自から移行する方向が異なる。地方大学の特色のするような方向が望ましいと思われる。

また大学院の設備標準については来年度の継続審議となった。

第2日の議題は、実習工場の充実、不完全講座の解消、特定機器および実験実習設備の充実、総合研究の申請、繊維工学区分の設置(文部省科学教育者の区分欄に繊維工学区分を設置するよう要望すること)についてであった。

2日間にわたる議事終了後、その内容に基づいた、繊維工学教育に関する要望書が本集会代表者白樫教授の名で坂田文部大臣宛に出された。

本集会の出席者は、山形大、群馬大、東京大、東京農工大、名工大、岐阜大、福井大、京都織大、信大繊維その他の合計44名であった。

平林潔講師第9回厚木記念賞受賞

繊維工学科の平林潔講師は、「絹フィブロインの微細構造に関する研究」と題する一連の業績に対し、このほど繊維学会から上記記念賞を贈られた。この賞は、繊維学会が毎年一回、繊維科学の分野において独創的な研究を行っている新進気鋭の研究者に与えられる。この研究でフィブロインの微細構造を、X線、電子回折、赤外吸収スペクトル、旋光分散等の技術を駆使して詳細に研究し、構造におよぼす温度ま延伸効果等も明かにしたことが受賞の価値ありと認められたものである。

信大教科書

自然科学書

工学書協会特約店
株式会社 西 沢 書 店
上田原町 TEL 0024

会員名簿お求め下さい

千曲会員名簿発行についてはご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。名簿の残部がありますから会員1冊は必ずお求めご利用下さい。

1冊 500円(送料を含む)

但し千曲会窓口渡しの場合は1冊400円

体裁 B5版 539頁 横組式 卒年別 支会別

社団法人 千曲会動静部

支会だより

神奈川支会総会記

昭和45年度の支会総会を桜の花弁が舞い、麓はもえぎから新緑になろうとする風情のある、箱根路の宮の下に会場を設けて4月18日に開催した。

本年の春は天候があまり順調ではなく雨量が多く、当日の18日も雨天であったが、支会員の皆さまのなかには幹事よりも一足早めに会場に到着されるという雰囲気であり、なお本部からは繊維工学科の小林尙一先生と理事の白井要範事務局長が遠路にもかかわらず早ばやとご出席して下さいました。

総会はずまず開会のことばに始まり、松崎滋支会長の活気に溢れた充実した挨拶があり、つづいて神立均幹事の1年間の経過報告が行なわれ、また会計中間報告もされた。



なお新支会長選出の議題については松崎支会長より「本来ならば支会員全員の選挙によることが望ましいが、この総会ではどう取り扱ったならばよい」との提起がなされた。そこで紳士であり大先輩の好士泰造氏の(糸T10)より「支会長の考え方には賛同するが今回はこの総会の席上で選出したならばいかがでしょうか」との発言があり満場一致でその方法によることを確認し、44年度に引続いて現支会長の松崎滋氏が再選された。

そこで松崎支会長の就任の挨拶があり、①支会活動をより充実させ、会員

の発展を期すには会費は本部会費をも含めて3,600円、②前年度の幹事全員の留任、の要望が述べられ承認された。来客の小林尙一先生は学部状況について述べられ、白井要範事務局長からは千曲会本部の事務および状況報告が行なわれた。

ここで井上彰久氏(紡T11)の音頭で乾杯し、懇親会に入った。グラスと杯を汲みかわすうちに会員同志の話し合い、自己紹介やら歌などと次第に活気を運び、小林先生は笑顔満面、白井事務局長はえびす様のようになられ、箱根の夜は更けて行き、会場を幹事室に移し、カクテルを傾けながら深更まで話し合った。

この間会員は遠隔の各地で用務を遂行され、夕刻の6時までには箱根へという方も二、三見受けられて33名の出席者となり、天候のため予定よりやや少なかったが、関係者としては心暖かなものを感じ、この気持ちを全会員にお伝えしたいほどであった。

また翌朝は懇親会とき以上に話もはずみ杯も進んで、前夜の時間の不足分を十分にとりもどし各位は心ゆくまでお互の心が解け合ったような雰囲気を感じたのは幹事のみではないでしょう。

神奈川支会の会員は20才代の新進の青年から80才に近い大先輩と各種の業務にわたっているの、その会員が総会に出席し、業務などの情報交換の場にしたり、お互の健康、家庭、子弟の教育、就職、結婚などのことを話し合えて、次回も是非出席したいという意欲のおきる会の運営をしたいものである。

昆虫である蚕とその産物である生糸、絹の関係者よりスタートした千曲会ではあるが、60年を経た現在のもとより、今後の科学技術の進歩と経済社会の発展にともなう会員の構成および

意識の推移を十分考慮していきたい。

(近藤成敏記)

役員名 支会長 松崎 滋 (糸S16)
幹事長 近藤成敏 (糸S29)
幹 事 神立 均 (紡S30)
" 内藤則雄 (糸S34)
" 石黒善夫 (織S41)
" 日向 弘 (紡S24)

出席者 (33名)

松崎滋、内藤則雄、根岸市郎山口徹、高村弘、丸山利十、竹内正司、小泉辰雄、吉田義夫、神立均、山辺英二、北村喜美夫、滝沢徳彦、内堀秀夫、柳沢俊雄、石黒善夫、近藤成敏、今井喜八中木武、小林顕、齊藤幸夫、山本和男、雨宮育造、佐久間政志、太田良信、好士泰造、井上彰久、赤尾睦夫、湯沢慶彦、西沢厚男、丸山殖。

千曲会三丹支会総会開催

5月24日、いろいろの事情で延び延びになっていた千曲会総会を綾部の萬家にて本部より御多忙中の北条先生をお迎えして開催した。参集した会員は次の17名である。

三 丹 支 会
昭和四十五年 五月二十四日
萬家にて
北条先生
川無学
神奈川
松崎滋
近藤成敏
神立均
内藤則雄
石黒善夫
日向弘
井上彰久
赤尾睦夫
湯沢慶彦
西沢厚男
丸山殖

細川 豊 (蚕19) 金井 保 (蚕 34)
尾崎 孜 (糸25) 平坂忠雄 (学蚕2)
塚田和磨 (糸25) 高沢弘明 (学化8)
森 力雄 (糸27) 中村康二 (学紡10)
目崎正夫 (蚕28) 児平徳郎 (学紡11)
岩佐隆次 (糸29) 三浦 俊 (学紡11)
小池泰正 (蚕30) 花輪省三 (学機2)
細田増郎 (糸30) 若山行正 (学化11)
芦谷鉄郎 (蚕33)

午後3時よりの総会はずまず幹事長の司会で支会長の挨拶に始まり北条先生

よりの挨拶及び本部及び学校の現況についていろいろお話があり、会員よりも多くの質問もあり千曲会への会員の熱意の程を見せていた。金井氏(蚕34)より遅ればせながら44年度の千曲会総会の報告があり事務局よりの会計報告も滞りなく承認され議事を終った。時予定の時間を相当にオーバーしてしまっていた。



懇親会の前に一同先生を囲んで記念撮影をして副支会長の音頭で一同乾杯し、そして一人一人自己紹介、宴が進むにつれ先生を囲み又先輩を囲みいろいろな話に花を咲かせそして各科よりのパッパ、索歌、応援歌いろいろ出しものがでていっそう盛大になり時のたつのを忘れた程である。最後に寄書をして先生の音頭により千曲会及び三丹支会の万歳を三唱し散会した。

(若山記)

福島支会だより

新緑も濃さを増し磐梯の山野は生々とした5月23日福島支会は飯坂温泉グランドホテルで開催された。本部から出席予定の先生が都合つかず私が代って出席した。出席者は各業界で活躍している大先輩から昭和30年代の若い経営者まで16名であった。会は原田種亀福島支会長から70名を越す会員が県内に活躍しているので連絡を密にし親睦向上を計って会の発展を望む挨拶があり、つづいて角替幹事長から会務報告あり、白井が千曲会の現況報告、学部近況について話し、学部への連絡事項等あったら取り次ぐから利用願いたいと話した。議題の役員改選については全員一致して原田種亀現支会長に続いてお願いすることに決まった。支会

事務所については会員との連絡上都合良い製糸協会におき幹事長に県内事情に詳しいベテランの竹内万二郎氏にお願いすることになった。懇親会は田中副会長の乾杯で始まり酒間四方の懐旧談から現在経営面での活躍の話、社員新規採用の面接の話や行動範囲の広くなった企業での活躍振りを聞いて敬意を表すとともに愉快であった。県下でも有数の生徒数をもつ三瓶校長先生も学校発展の経過を話される等有意義の総会であった。翌日は福島駅まで多忙のところ三菱電気の叶沢弘さんの自家用車で安全運転していただき原田支会長、竹内幹事長、角替幹事各位には同車で送っていただき厚く御礼申し上げます。

(白井要範記)

支 会 長	原田種亀
副支会長	安部和、田中四郎
幹 事 長	竹内万二郎
幹 事	角替勉夫、柳沢晋
方部幹事	伊達方部 多勢正一
	県南方部 中山威四郎
	郡山方部 松尾照光
	会津方部 中沢 薫
	相双方部 塩 瓏
	平 方部 大泉英明
事 務 所	福島市上町福島県製糸協 会内千曲会福島支会

静岡支会だより

6月14日静岡支会は市内竜宮別館で開催した。本部からは北条舒正副理事長の出席を得て盛会であった。会は山田良人支会長から挨拶あり北条先生から学部近況と千曲会の現況報告があり役員改選の結果支会長、事務所、幹事長は次のとおりきまった。

支会長	浅川茂樹(蚕22) 静岡県駿東郡裾野町佐野 電(05599)(2)2038
事務所	鐘淵繊維株式会社(静岡県駿東郡裾野町佐野)
幹事長	同上所長 児玉郁郎(蚕33)

静岡支会も新しい企業会社が出来千曲会員も100余名と多くなったので支会の盛会発展を誓って散会した。

紡7回卒クラス会

去る6月20日(土)15時より安井健一兄、宮西憲二兄等の肝入りで、暫く振りに紡績科第7回卒(昭和3年)のクラス会を大阪府箕面市で開催した処東西の各地より馳せ参じ、家事都合で欠席した湯原諄兄を除く9名全員が出席し、誠に大盛会であった。

この箕面については、ご存じの人があられるかも知れないが、千数百年前より仏教の修験道場として開け、又江戸時代元禄のその昔から紅葉の名所として今日では「明治の森」の国定公園として広く全国に知れわたっている。



会場はときたまたま開催中の日本万国博千里丘会場と、最短距離にある国定公園箕面の丁度中腹、名利滝安寺を前にして、清流箕面川のせせらぎのほとりに、しゃれたただずまいを見せる加古川旅館である。

7時30分より開宴に入り、安井、宮西両兄の奥さんも共々列席いただいたことは、誠に感激に堪えない。愚生など卒業以来42年振りで逢った者も3〜4名おったが、併し皆元気なので安心した次第。中には既に毛髪薄く、禿げ上ったもの、そうかと思えば、青年の

如く房々とした黒髪の方、これがかつては同じ学会で学びし同期の連中かとそぞろ往時が偲ばれ、感慨無量のものであった。現在まだ第一線で活躍している者は兼松トップの安井兄だけで、後は皆定年で第一線を退いている。

さて、宴会は新築したばかりの立派な部屋に通され、互に指しつ指されつ酔う程に、各人より年期の入った美声の披露、これに又驚女中の加古川音頭などの飛び入りや、しとしとと降り続ける小雨の音なども入り交り、ますます興に入り22時散会す。当日は相憎く屋過ぎから雨降りなので、どこも散策できなかったが、宿の主人の話では、四季を通じ、ここはとても景色の良い処だそうなので、何れ機会を見て、又行って見たいとも思っている。

次会は信州で、既に他界された恩師の供養もかねて開いてはとの希望もでたので、何れ来秋はどこか適当な処を選定し、開催することにしたい。来年は全員参加を今から期待している。

特に当日は小林助教が、ご多用中にも拘らず大阪出張の序に列席してくれたことは誠に有難く感謝している。以上極めて簡単に会合の様子を書いたが、今後ともますます各位のご健勝とご家族のご多幸をお祈りする次第である。最後に今回のクラス会開催に際し格別のご配慮をいただいた安井、宮西両兄に深甚なる謝意を表す。(大谷記)

紡15・クラス会開催

7月4日午後4時から岐阜・長良川畔ホテル・パークで紡15回生がクラス会を催した。



クラスのものが一堂に顔を揃えたのは、卒業以来実に34年振りである。こ

の会合は、川久保元(岐阜・川島紡績重役)、中川正(愛知県繊維雑貨課長)両君の発案、発起によるものであるが当日は生憎台風2号接近の報が出ていたが、それにも拘らず長野、大阪は言うに及ばず、速く広島からも駆けつけ不参者3名を除く全員が集まった。

屋形船に、きれいだころをはべらせての鵜飼の観賞もさることながら、みな飲むほどに酔うほどに、話題は期せずして昔にさかのぼり、頭は白く、薄くなりかけても学生時代のおもかげはそのまま残っていた。いまは、それぞれその所を得て、元気で大いに活躍しているのは何よりであった。9時下船一旦宿舎に引揚げ、元気を出して柳ヶ瀬に遠征。ご帰還は12時を過ぎていただろうか。翌5日、これを機会に年一度こういった会合をもつことを申し合せ、盛会裡に解散した。当日の出席者は次の通り。小鮎啓助(上田)、高木信雄(塩尻)、川久保元(岐阜)、中川正(名古屋)、天野彰、上田正三(大阪)、菅尾源治(広島)。

女子千曲会つどいの記

7月上旬は農家には最繁忙期である。15日の会合日は第2号台風が中部地方を通過すると言うので心配したが、幸いに90度西に方向を変えて大阪湾から日本海にぬけていった。それでも屋頂には強風が吹いており、これでは参加者も少ないのではないかと安じたが、24名が出席して盛会であった。会は10時頃から始まり、今日の幹事、池田、小鮎、深町さんを代表して池田さんから挨拶をかねていろいろな報告があった。そこで突然池田さんから今日は私の退官慰労をかねた会だと言われ、私は大あわて、恐縮してしまった。皆様から長い間御苦勞でしたと言われ、私も御礼の挨拶をした。本日集まった人は、最年少で昭和20年卒であった。ですから皆さんがいずれも主婦として貫録の出た人達であった。そして地方の有力者として活躍をしており、子供さ

ん達も社会に出て活躍をしており、立派なお母さん達であった。席上での話は娘時代の楽しかったことや越し方の想い出話に花が咲いた。また今日始めて見る母校の姿が自分達が学んだ頃の面影はなく立派な近代的な姿に驚き、また頼もしいことだと語りあった。私は皆さんの母校が名実共に立派な大学となり、学内には不穏な空気も殆どなく平和な日々を過しているため、社会からも信頼されていることを話した。今の多くの大学が何等かの形で学園の平和が乱れていることを知っている皆さんは自分の子供もこんな立派な母校に学ばせたいと異口同音に話しあっていた。折りよく町田先生が出勤されていたので案内をしてもらった。田中先生の養蚕機械、関先生の研究による見あげるような立派な桑を見て驚くとともに母校の先生方がこのような立派な研究をしていることは何よりの土産話ができたと喜んでた。話はなかなかつきなかつたが遠方(小海町からも来た)の人もあるので午後3時頃、和氣講々のうちに会を閉じ、母校の弥栄、千曲会の発展を祈り、このような有意義な会合は度々開くよう話しあい、幹事さんの労を謝し、別れを惜しみながら散会した。



当日の出席者＝茨木こう、丸山はる建部すぎ、小平波、西条純子、土屋まさじ、鷹野和子、蓬田クニ、保科伝、高橋ふじ子、金井筋、池田かよ、深町てる、小鮎敏子、堀内あい子、井出初子、柳沢たつみ、小池とも、尾崎すぎ枝、雪田郁代、合葉富美、渡辺みつ子、金井文代、田中いよ、青井しず。

文月に季筋はづれの疾風かな
(萩原清治、糸12)

第31回社団法人千曲会総会のお知らせ

恒例の总会第31回総会を来る11月23日勤労感謝の日午前10時から母校第1会議室で開催いたします。本部議案は次のとおりです、支会からも奮って議案提出下さい。当日は役員、支会派遣代議員は勿論一般会員も多数ご出席下さるようお願いいたします。

本部提出議案

- (1) 昭和45年度歳入歳出決算について
- (2) 昭和46年度歳入歳出予算について

- (3) 賛助員の推挙について
- (4) 会員の表彰について
- (5) 役員の改選について
- (6) その他

報告事項 1 般会務報告外各部局報告

その他 (1) 蚕糸教育の改善について経過報告及び懇談

(2) 会員海外視察報告

社団法人千曲会 理事長 小林 運 美

本部だより

理 事 会 開 催

7月30日理事会を開催。出席者は小林運美理事長、母袋忠右エ門、北条舒正の両副理事長、蒲生俊興、野口新太郎、山口定次郎各顧問、和田晋相談役、笠原正巳、関博夫、山崎寿、沓掛久雄、竹内善吾、田口玲、西沢正一、土屋幾雄、小山長雄、松沢秀二、白井要範の各理事、委任状7通。小林理事長議長として次の事項を協議した。

(1) 総会において理事に1任あれた事項

(1) 理事監事の選挙については従来通り代議員総会において選挙する理由は従来も有力な支会長は理事に選出されている。全支長を理事とすることは運営その他困難があるので否決された。

(2) 評議員の選挙については総会において理事に1任されて選出されるのが慣例であるが、支会に参画の意識を盛りあげる意味で支会別の評議員数を割当てこの範囲で評議員を支会で投票する(推薦)ようにし結果を本部に通知する(3) 定款変更については昭和43年第1条も変更して……に関連する産業の発展に寄与しあわせて会員相互の親睦と福利厚生を図ることを目的とすると改正したのでニュアンスの問題であるから拡大解釈であらゆる職域に勤務する会員も網羅してゆき定款変更は見合せ現行どおりに決定した。

(2) 昭和46年度事業計画について会費納

入率の向上を計って会報発行その他の事業が活発に出来るように10月の理事会までに計画予算を提出すること。

(3) 会員の表彰については今年は60周年にあたるので表彰人員をふやしてはとの意見もあったが大体前例とし10月理事会で協議する。

(4) 財団法人上田繊維学振興会の研究表彰の推薦については次回発行のNo.176号千曲会報に推薦の依頼広告を掲載することに決定し、9月30日までに支会長の推薦書を理事長あて提出し理事会で審議し決定の結果更に理事長名で繊維科学振興会理事長に推薦提出して繊維科学振興会助成委員会において最終決定するものとする。

(5) その他事項蚕糸教育の改善について経過報告があった。

なお5時から母袋副理事長が5月出張の欧州諸国の社会福祉事業視察報告が地元上小支会と合同で鮮明なスライドで行なわれ盛会であった。

上田繊維科学振興会役員会開催

研究助成委員会 5月27日第9回研究助成委員会を開催した。出席者は会田源作理事長、北条舒正副理事長および審査委員早川忠男、小山長雄、竹田寛の3先生によって申請書研究計画概要等内容審査して次の研究課題に対して助成することに決定した。

小矢部川水系におけるパルプ工業廃水による水質汚濁に関する研究：荒井優美、光周性利用による育蚕技術に関する研究：平坂忠雄、ヘテロクムレン

とカルボニル化合物の反応：山本巖、ポリビニールアルコールの不均一ホルマール化反応に伴う橋かけ反応に関する研究：小笠原健二、家蚕の殺菌剤の中毒に関する研究：横山十三男。

監事会開催 5月28日監事会を開催。

出席は小泉所、坂口育三、宮原大正治の3監事、会田理事長、北条副理事長および白井要範で、昭和44年度歳入歳出決算について諸帳簿を監査し又基本財産の保管状況については八十二銀行貸金庫に安全保管してあることを確認し無事終了した。

理事会開催 5月28日午後理事会は会田、北条の正副理事長、竹内善吾、香山清和、隅田隆太郎、小林尚一、関博夫、小泉、坂口の両監事出席し、

(1) 昭和44年度歳入歳出決算について小泉監事から監査報告があり原案通り承認された。

(2) 第9回研究助成については前日決定した研究課題および研究担当者に助成することを決定した。なお本年は開校60周年にあたり各学会等開催があるので重点を学会講演会開催に力を入れることになった。

(3) 本年度学会講演会補助について日本蚕糸学会、繊維学会秋季大会、国立大学繊維教育研究集会、日本生態学会甲信越大会の開催が決定されているので各々助成することに決定した。

評議員会開催 6月29日評議員会を開催した。出席は宮城博、松尾卓見、山崎寿、深町千晴、沢路雅夫、一志淑夫、久間秀彦、委任状は母袋忠右エ門、市

川文夫、金井勘次、笠原義昭の各氏であった。議題は

- (1) 本会事業について(A)研究助成について助成人員をしばって助成額を増すよう意見があった、本会事業は基本財産から生ずる利子によって運営しているので助成額に限度があるか効果のあがるよう研究する(B)学会講演会開催については本年度の実施予定の説明があった。
- (2) 昭和44年度歳入歳出決算について原案了承。
- (3) 昭和46年度予算については予算書提出は従来前年11月に提出していたが、46年5月とする事がよいではないかとの意見があり研究することになった。

笹本保雄氏(蚕15)

山梨県塩山市長に当選

笹本保雄氏(蚕15)は7月の塩山市長選に立候補し市民の信頼と氏のすぐれた手腕を評価され目出度く塩山市長に当選した。笹本氏はかつて山梨県地方事務所長として名声を博し、昭和38年の県議会議員選挙には立候補し堂々当選し県政の発展に貢献される等輝かしい業績により今回の塩山市長当選となり誠に欣快なニュースである。笹本氏の益々ご健勝ご活躍を期待申し上げます。

笠原正巳氏(糸15)

長野県公安委員長に就任

笠原正巳氏(糸15)は7月26日長野県公安委員長に就任した。公安委員としては昭和42年からの勤めで交通事故対策、防犯、火災、公安更に公害問題等あらゆる点で県民の生活につながっている機関であり、県民から警察の信頼は極めて大きく、今回公安委員長に選任された。なお氏は笠原工業株式会社社長、日本製糸協会理事、長野県経営者協会顧問等であり、前上田商工会議所会頭を3期つとめる等巾広く各業界で活躍されている。笠原氏のご健勝と益々ご発展を期待申し上げます。

田中茂光所長(農2)

蚕糸技術賞を受賞

株式会社信光技研開発研究所長の田中茂光農学博士は6月23日高松宮邸内の光輪閣に於て財団法人大日本蚕糸会総裁高松宮殿下から貞明皇后記念蚕糸技術賞と贈与の光栄に浴した。受賞の対称は稚蚕用自動飼育装置の開発に関する研究について優秀な成果を挙げ蚕糸技術の改良発達に貢献したためである。田中所長は先年發明協会、科学振興会からも表彰されている。省力機械化養蚕の権威者である。益々ご発展を祈る。

支会へ連絡事項

① 6月10日金支会へ厚生部活動について再就職斡旋担当者(委員)の推薦依頼を発信した。次の支会から回答があった。北奥、福島、安筑、兵庫、千葉、石川、福井、熊本、鹿児島、山陽、神奈川、愛知、東京、静岡、近畿、上小北佐久、南佐久の各支会。

② 8月25日各支会へ会費納入向上について依頼を発信。

③ 8月27日各支会へ11月23日恒例の定期総会が開かれるので役員改選のうち評議員は支会で推薦し10月30日までに本部に報告するよう発信した。

④ 支会長、事務所の変更のあった支会
愛知支会長稲垣文一郎(愛知県西尾市亀沢町300、愛知県立西尾実業高等学校、電(05635)(7)-5165

事務所 小林正治、愛知県加茂郡足助町)
静岡支会長浅川茂樹(静岡県駿東郡裾野町佐野1044の4、電(05599)(2)2038

事務所 児玉郁郎、鐘淵繊維株式会社静岡蚕種製造所(静岡県駿東郡裾野町佐野)

宮城支会長倉沢恒夫(宮城県蚕業試験場、宮城県亶理郡亶理町館南70)
宮崎支会長河野芳春(宮崎市下北方町陣ノ平6380の2

上田寸描

上田市民総合体育館完成

上田公園旧蚕業試験場上田支場敷地に建設中の市民総合体育館が完成。9月6日体育館開き完成祝賀式が行われる。この体育館は鉄筋コンクリート2階建のべ3,720平方メートル。総工費1億3,000万円余。1階が球技、体操運動場でバスケットボール2面、バレーボール6人制3面、9人制2面、庭球公式で1面、卓球台も公式で8面置ける。このわきに500平方メートルの柔剣道場、さらに付属施設も作られ2階は観覧席となっている。

菅平有料道路開通

菅平有料道路は長野県小県郡東部町牧家地籍国道18号線入口から真田町大字長上屋敷まで延長16.5キロで、道の幅員は6メートル、建設費17億2,000万円円で完成、8月22日開通式が行われた。国道18号線のバイパス的な役割も期待されており菅平のスキー、夏の観光に利用者は便利になった。

上田市立図書館建築進む

上田市立図書館は上田市材木町元上田染ヶ谷丘高等学校の跡(現在建築中の長野県上小地区合同庁舎の隣り)に建築中で、鉄筋二階建、延坪2,000平方メートル、工事費1億400万円、11月上旬竣工予定である。

上田市の文化財をまとめ発刊

上田市教育委員会はこのほど市が指定した文化財を紹介、第1集を発刊した。この小冊子は国の重要文化財国分寺三重塔、県宝上田城三櫓、国の史跡信濃国分寺跡等30数点をのせている。上田市は4月に塩田町を合併したので別所の安楽寺八角三重塔、大法寺三重塔、中禅寺薬師堂や前山寺三重塔等重要文化財が多いので順次刊行していく計画である。

会 員 動 静

安部 和 蚕 13 (T15) 福 島 福島県農業短期大
学講師 (福島市荒町)
笹本 保雄 蚕 15 (S3) 山 梨 塩山市長 (山梨県
塩山市)
深迫 明 蚕 16 (S4) 熊本熊本県下益城郡城南町
助役
鈴木正一郎 蚕 22 (S10) 山 形 東邦アセチレンK
K酒田事業所 (山形県酒田市大浜1-4-88) 電(2)2391
(住) 山形県酒田市泉町11-14 電(3)1676
浅川 茂樹 蚕 22 (S10) 静 岡 鍾淵繊維KK嘱託
(住) 沼津市東熊堂16-2 熊野神社前
菊地 大郎 蚕 27 (S14) 福 島 会津蚕種KK取締
役製造所長 (福島県会津若松市一箕町八幡4)
(住) 会津若松市一箕町亀賀藤原34亀賀アパート
松田 栄 蚕 27 (S14) 山 陽 広島県農政部園芸
特産課長 (広島市基町10-52) (住) 広島市吉島町
1-24-23-301
鈴木 道夫 蚕 28 (S15) 神奈川 東京第5交通KK
専務取締役 (東京都渋谷区西原町1-35)
(住) 川崎市登戸新町271電 (044) (91) 3375
田島 政三 蚕 31 (S18) 埼 玉 昭栄製糸KK本庄
工場 (埼玉県本庄市七軒町2241)
斎藤 義臣 蚕 32 (S19) 山 陽 中国四国農政局統
計調査部調整課長 (岡山市天神町) (住) 岡山市伊
福町4-8-23-25
境沢 正人 蚕 32 (19) 千 葉 千葉県立工業高等学
校教頭 (千葉市今井町1478)
後藤 新 蚕 33 (S21) 近 畿 片倉工業KK大阪
営業所 (大阪市東区農人橋2-35)
山浦 和水 蚕 35 (S23) 栃 木 昭栄製糸KK小山
工場長 (小山市本郷町3-5-39) 電(02852)(2)1463
高橋 裕 蚕 35 (S23) 南佐久 長野県南佐久実
業高等学校 (南佐久郡小海町豊里)
工藤 五雄 蚕 36 (S24) 京 滋 松文産業KK栗東
工場長取締役 (滋賀県栗太郡栗東町目川611)
井野 正夫 糸 18 (S6) 近 畿 日本化学繊維検査
協会中央検査所 (住) 大阪府吹田市古江台1-22-5
益淵 誠正 糸 21 (S9) 山 陽 農林省中国四国農
政局広島統計調査事務所長 (広島市皆実町1-3-24)
(住) 広島市霞1-14-2
寺崎 喜美 糸 23 (S11) 栃 木 日東東電気KK小
山工場 (小山市大字土塔493-4) (住) 小山市大字
大塚830-14
安岡 美登 糸 28 (S16) 高 知 高知県蘭杉定所長

(高知市旭町2-11)
福島 正富 糸 30 (S17) 千 葉 千葉県立清水高等
学校教頭 (野田市清水482) (住) 船橋市習志野台6
-14-10
永野 裕貞 糸 32 (S19) 北 信 長野県総務部地方
課長 (長野市南長野市下)
竜野 勉 糸 37 (S25) 東 京 麹町税務署 (東京
都千代田区大手町) (住) 東京都杉並区和泉町4-
39-2 電 (328) 1398
田中 重臣 学糸2 (S29) 仙 台 農林省東北農政局
構造改善部蚕糸園芸課長 (仙台市本町3-3-1 仙
台合同庁舎) (住) 仙台市川内川内住宅第2
久保田重良 学蚕5 (S32) 愛 知 東海農政局構造改
善部蚕糸園芸課 (名古屋市中区三の丸1-2-2)
(住) 名古屋市北区名城町2名城住宅4-403
竹内 一誠 学蚕5 (S32) 宮 城 宮城県加美農業高
等学校 (住) 宮城県加美郡色麻村黒沢字切付1-17
山浦 正男 学蚕7 (S34) 岐 阜 岐阜県蚕業試験場
(岐阜県美濃加茂市蜂屋町 電(5)3803 (住) 美濃加
茂市野笹町1-7-17県職員アパート304
小島 広彦 学蚕7 (S34) 山 梨 大竜社山梨出張所
(甲府市住吉1-15-24) (住) 山梨県中巨摩郡敷
島町天狗沢1長田業方
吾妻 直 学蚕13 (S40) 更 埴 埴科蚕業技術指導
所 (長野県更埴市)
小林 公幸 学蚕15 (S41) 埼 玉 埼玉蚕業試験場
(熊谷市熊谷) (住) 熊谷市熊谷1260原口アパート
清水 浩 学蚕16 (S42) 群 馬 群馬県蚕業試験場
蚕桑化学課 (前橋市総社2326-2) (住) 同左公社
青柳 武夫 学織16 (S43) 上 小 笠原工業KK上田
工場 (上田市常入)
塚田 明 学織17 (S44) 竜 川 長野県下伊那蚕業
技術指導所 (住) 飯田市追手町県公舎

会 員 訃 報 下記会員が死亡されました。謹んで
哀悼の意を捧げご冥福をお祈り申し上げます。

小岩井桂三 糸 3 S45. 2.23 御逝去
妻 安子 松本市清水1-2-21
山田 斧市 糸 13 S45. 5.5 御逝去
嗣子 尚弥 岐阜県恵那郡岩村町飯町間
小松 正敏 糸 24 S45. 5.25 御逝去
妻 たき 大阪府枚方市樟葉835-6
岩瀬 義夫 蚕 8 S45. 5.31 御逝去
嗣子 文夫 岡崎市矢作町池田1-139
丸田 巖 化 1 S45. 7.10 御逝去
妻 清子 千葉県船橋市高根町3152-9

強力オキソ・レジン糖衣錠

優秀発明賞・紫綬褒章に輝く
小湊潔博士(糸4回、理研化学工業株式会社
取締役社長)の発明

- 特 長
1. 長期間常用しても体臭・口臭・便臭をともしなわない。
 2. 著しく食欲を増し体重を増加する
 3. 便通を整え、常習性下痢を医す
 4. 抗病性を増す
 5. 体力増強・末梢血管の拡張等によって保温作用があるので常用すると冷え症によい

適応症 食欲増進、虚弱体質、盗汗、腺病質、
疲労回復、産婦人栄養、更年期障害、
神経痛、アレルギー疾患

理研化学工業株式会社

本 社 京都市左京区下鴨萩ケ垣内町15
電 話 (781) 0 4 3 3 番

伏見工場 京都市伏見区深草向川原町48
電話(841)5306(代表)～9番

東京連絡所 東京都港区南麻布4丁目13番9号
電話(444)0721(代表)～4番

販売元 岩城薬品株式会社
大阪市東区伏見町三丁目二十六番地

イワキ株式会社
東京都中央区日本橋本町4丁目1番地

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4
堤 第 一 ビ ル 4 階
東 京 (591) 0764・0765

弁 理 士 浜 香 三
弁 護 士 中 猪 之 助
千曲会員 榎 島 鋼 治 郎
千曲会員 長 谷 実

煮 蕪 機 の**井口工業株式会社**

本社工場 長野県岡谷市銀座2丁目12-18
電話 岡谷 (02662) ③3288 (代表)

第2工場 長野県岡谷市加茂町4丁目3-5
電話 岡谷 (02662) ② 4 6 6 8

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北 野 次 登

長野市県町524 電代(2)1201
東京都中央区銀座1の5北野ビル 電大代(562)2331
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル 電代(344)2366
松本・高田・ジャカルタ

千曲会費完納会員

会費通算40回完納した会員は次のとおりです。多年本
会向上発展にご協力いただき感謝いたします。なお40回
完納会員は以後会費免除となります。

万 石 安太郎	壺 9	(T11)	埼玉
宮 堀 俊雄	壺 17	(S5)	上小
竹 内 万二郎	糸 16	(S4)	福島
等々力 宜安	糸 22	(S10)	東京

編 集 後 記

今年は例年になく残暑の厳しい年ですが会員皆様には
愈々ご健勝にてお励みのことと拝察いたします。

表裏一体であるべき学部もいろいろな重大な時局に直
面し全く多忙な状況におかれておまして会報の発行も
おくれて申訳なく存じています。11月23日の同窓会総会
も追って参りましたのでよりよいご意見をご持参されて
多数ご出席をお願いいたします。これから時節もよくなり
ますから皆様のご健闘を心から祈って止みません。

編集委員 竹田 寛、篠原 昭、竹内 善吾
中沢 賢、平林 潔、小笠原真次
白井 汪芳、小林 俊一、白井 要範



皆様の百貨店

上田・中央 **ほていや**